

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Influence of maternal postpartum depression on children's tooth brushing frequency

和文タイトル:

母親の産後うつと子どもの歯磨き習慣の関連について

ユニットセンター(UC)等名: 宮城ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: COMMUNITY DENTISTRY AND ORAL EPIDEMIOLOGY

年: 2021 DOI: 10.1111/cdoe.12672

筆頭著者名: 土谷 忍

所属 UC 名: 宮城ユニットセンター

目的:

毎日の歯磨きは子どもの虫歯の発生予防に効果があるが、幼児期の歯磨き習慣は保護者に依存している。本人のうつ病と歯磨き頻度の低さには関連があるという報告があるが、母親の産後うつと子どもの歯磨き習慣との関連は分かっていない。本研究では母親の産後うつと子どもの2歳時点の歯磨き習慣との関連について検討する。

方法:

84,533組の母親と生まれた子どもを対象とした。エジンバラ産後うつ病自己評価票(EPDS)を用いて産後1か月と6か月に評価し、EPDS合計9点以上を産後うつとした。産後1、6か月両時点で産後うつでない群、産後1か月のみ産後うつ群、産後6か月のみ産後うつ群、両時点で産後うつである群の4群に分け、子どもの歯磨き頻度は1日1回以上、1日1回、1日1回未満に分類し、ポアソン回帰モデルで解析した。

結果:

産後1、6か月両時点で産後うつでない群は81.1%、産後1か月のみ産後うつ群は7.5%、産後6か月のみ産後うつ群は5.0%、両時点で産後うつである群は6.4%であった。子どもの歯磨き頻度は1日1回が51.6%、1日1回未満が0.5%であった。母親の産後うつと子どもの歯磨き頻度の低さには関連が認められ、特に産後1、6か月両時点で母親が産後うつであることと子どもの歯磨き頻度の低さには関連がみられた。

考察(研究の限界を含める):

2歳時点の子どもの歯磨き習慣と母親の産後うつに関連が認められ、産後うつのスクリーニングをすることで、2歳時点の子どもの歯磨き習慣を把握できる可能性が示唆された。本研究の限界として、子どもの歯磨き習慣に関する評価が2歳時点の歯磨き頻度のみであり、経時的な評価が必要であること、また、子どもの虫歯の発生、フッ素が含まれる歯磨き粉の使用、母親の就労状況に関する情報等が含まれないことが挙げられる。

結論:

母親の産後うつをスクリーニングし適切に対処することによって、子どもの歯磨き習慣を定着させ、子どもの虫歯の発生を予防できる可能性が示唆された。